


平成26年度国立天文台研究集会開催報告書

平成 27年 5月 7日

国立天文台長 殿

代表者	氏名	(ふりがな) こだま ただゆき		
		児玉 忠恭 		
	所属・職	ハワイ観測所・准教授		
	電話	0422-34-3533	E-mail	t.kodama@nao.ac.jp
研究集会名	ULTIMATE-Subaru Science Workshop 2014			
開催期間	2014年 7月 28日 ~ 2014年 7月 29日			
開催場所	国立天文台 三鷹キャンパス 講義室			
参加人数	30名程度			
研究集会の概要	<p>ULTIMATE-Subaruはすばるの将来計画の3つの柱の一つであり、可変副鏡を用いて広い視野のAO（補償光学）を実現し、15分角に渡り0.2”程度の高い空間分解能を達成して、撮像、分光を行うプロジェクトである。今回の研究会は、これまで検討されてきた、「1：広視野撮像装置」、「2：MOS分光装置」、「3：KMOS-typeの多天体IFU」に代わって、新たにAAOが開発している「4：Starbug fiber system+多天体IFU装置」に焦点をあて、そのサイエンス成立性を議論するのが主目的であった。</p> <p>AAOからのゲスト2名および、国内、ハワイの日本の次期補償光学検討会のメンバーらが一堂に会し、サイエンス要求に基づく、上記装置の検討を行った。</p>			

<p>研究集会の成果</p>	<p>検討の結果、多天体面分光装置は世界の他の望遠鏡や装置と比較しても大変ユニークであり、サイエンス的にも銀河形成ピーク期にある銀河の統計的な研究に力を発揮することが期待されることから、今後AAOと共同で継続して検討を進めることになった。</p> <p>本研究会の開催によって、一般コミュニティーの方々の講演やその内容についての議論を通して、ULTIMATE-Subaru計画がより認知されるようになったことも大きな成果である。</p>
<p>その他参考となる事項 (希望事項も含む)</p>	